

福井市地域障がい児支援体制強化事業 評価シート

事業所名

こども発達支援センターのびろ

資料2-2

事業所概要

職員配置

職種

氏名

備考

相談員

近藤 登代美

【項目毎評価の方法】		チェック項目：実施＝○、一部実施＝△、実施していない＝×									
		総評：チェック項目が全て○＝A、○及び△＝B、×を含む＝C									
取組項目		仕様書に沿ったの自己評価				福井市の障がい児支援について 今後の取組・改善方針 (地域課題含む)	行政評価			こども部会委員の意見	
		総評	チェック	業務内容			取組と取組結果		総評		チェック
1 児童発達支援センター職員の質の向上	①質の向上	A	○	a	児童発達支援センターにおいて障がいの種別やその特性に対応した専門的かつ適切な支援ができ、機能強化事業に対応できるよう職員の質の向上を図ること 〔達成値：2回以上〕	【研修回数】 20 回 【内容】 子どもの権利や療育技法・支援方法、ケース検討、国の施策動向、救急や感染症対策に関する職員研修を受けた。外部研修では、福井県特別支援教育センター主催の「算数障害」の研修や今年度からスタートした就労選択支援サービスについての勉強会、福井県知的障害者福祉協会職員研修会に参加した。	医療的ケア児への支援や学習障がいやクローズアップされている中で、その知識をさらに深めて行く必要性を感じる。幼児期の相談が中心だが、中高生も少ないものの件数としてはある。大人になっていく移行時期の支援にも目を向けて考えていきたいと思う。	A	○	インクルージョン推進のため、研修等を受講し質の向上に繋げている。 今後も積極的に研修等を受け、強化事業に対応できる職員の質の向上に取り組んでほしい。	・医療的ケア児や強度行動障害など、法整備が進んでいるところはカバーできつつありますが、愛着障害や保護者の問題などまだクローズアップされていないところの支援の強化にもつなげていってほしいです。(山田)
	①スーパーバイズ・コンサルテーションの実施		○	a	障害児通所支援事業所への訪問によりアセスメントや個別支援計画の作成、具体的な支援方法等について専門的な助言・指導を行うこと 〔達成値：20回以上〕	【訪問事業所】 8 カ所 【訪問回数】 12 回 【内容】 今年度はセンターが通所事業所に対してどんなことに取り組んでいるのかを具体的に示したチラシを作成し周知した。 記録の書き方や支援、全体活動の進め方などの相談があった。また支援員のための勉強会を6回企画開催。現時点で4回の参加者はのべ56人(8事業所ある。さらに、事業所の職員研修の受け入れも行った。	周知は行っているものの、事業所からの相談は多くはない。 今年度の児発管ミーティングの人材育成をテーマにした回で、「センターがしてくれるといい」、「児発管は手が回らない」、「外部研修が職員のスキルアップにつながる」などの意見があり、児童支援員のための勉強会を企画した。 訪問という形に限らなくても専門的な助言も可能と考え、今後も継続していく予定。尚、今年度は残り2回開催予定である。		△	訪問による障害児通所支援事業所への助言・指導はニーズが低いためか、達成値を下回った。しかし、事業所の人材育成のニーズに合わせ、勉強会という形での助言・指導に繋げた活動は評価できる。 今後も福井市の障害児通所支援事業所の質の底上げのため、対象や手段について検討をしながら助言・指導を行ってほしい。	・【共通】新規事業所に関わらず、通所事業所が偏りなく助言・指導を受けることが、支援の質向上において望ましいと思います。(畑) ・【共通】自発管Mや定期的な研修会などへの参加をある程度義務づけるようなシステムなどが行政と連携して検討できるとよいと考えます。(畑)
			○	b	新規事業所は必ず訪問し、専門的な助言・指導を行うこと	【訪問事業所】 0 カ所 【訪問回数】 0 回 【内容】 今年度新規事業所なし。		B	○		・国が考える児発管の業務の中に職員への指導助言があります。それを児発センターに投げてしまうのはいかがなものかと思われます。それなら、児発管対象に指導助言のコツの勉強会をしていただき、どのように空き時間を作って研修をするか、GSVの手法など教えていってあげて欲しいです。(山田) ・【共通】最近では放課後等デイサービスの卒業の時期や目標達成ができつつあるので利用日を減らしていくなど事業所の方と共有できるようになったと感じています。(山形)
3 地域の保育所等への支援	①保育所へのインクルージョンの推進		○	a	地域の保育所を訪問し、インクルージョン推進の意義、保育所等訪問支援や移行支援の目的および内容を説明等を行うこと 〔達成値：10か所以上〕	【訪問保育所】 10 カ所 【訪問回数】 20 回 インクルージョン推進や地域の支援者をサポートするチラシをもって訪問し周知に努めている。移行支援会議の大切さや進め方などの説明も行っている。複数回依頼があり同じ保育所に伺っている。	インクルージョンという言葉が盛んに言われているが、その意味や考え方が人それぞれであり、関係者の間でも異なっている印象を受ける インクルージョンの推進を障がい福祉の立場だけでできるものではなく、こども保育課やこどもに関わる関係部署とともに行っていくことだと考える。 インクルージョンに関する研修会を障がい福祉課だけでなくこども部局全体で開催するなど検討してはどうか。		○	保育所への訪問は達成値に達しており、訪問回数も多いことから保育所等訪問支援の目的や相談先としての認知は進んでいる。しかし、支援者のインクルージョンの捉え方によりまだまだ障がい児支援に差が生じている。 今後こども保育課と連携し、園長会などで周知すると共に、現場職員対象の研修を行ってほしい。	・【共通】訪問することでどのような効果が得られるのかが、見えにくい。訪問することで得られる効果を考えて頂き、インクルージョンへの推進につなげてほしい。(吉村) ・インクルージョンの言葉の捉え方に関しては私も同感です。事業所間でもイメージの不一致で支援方法に隔たりがあり、併用利用の子どもたちが困惑するケースもあるのではないのでしょうか。インクルージョンのイメージを考える児発管Mの回があってもいいのかもしれません。(山田) ・園では事業所から保護者や子どもの情報をいただくことで理解がより深まり、大変ありがたいという意見があった。(服部)
			○	b	保育所に対し、専門的な知見に基づき、障がい児の支援方法等に関する助言を行うこと	【内容】 こどもの行動をどう理解し、対応をするのか(支援方法)、保護者の理解をどう進めていくか、保育士がどのように保護者にはたらかせていくか(保護者支援)について助言を行った。		○			
	②児童クラブ等へのインクルージョンの推進		○	c	地域の児童クラブ等を訪問し、インクルージョン推進の意義、保育所等訪問支援や移行支援の目的および内容の説明等を行うこと 〔達成値：8か所以上〕	【訪問児童クラブ】 8カ所 【訪問回数】 10 回	地域の児童クラブを訪問し、センターの役割等を説明させてもらった。児童クラブの特色を教えてください、訪問を希望されずつながらなかったり様々な反応だった。 これまでも障がい福祉課に伝えてきたように、こども育成課との連携なくして児童クラブへの介入は難しいと考える。またそれぞれの立場や実状を十分に理解する必要があることも、実際に児童クラブなどに足を運ぶことで痛感している。		○	児童クラブへの訪問は連しているものの、児童クラブにおける相談先として児童発達支援センターがあることはまだ十分に周知されていない。 今後も障がい福祉課、こども育成課と連携を図り、児童クラブにおける障がい児支援を推進する体制づくりを強化してほしい。	・【共通】児童クラブを利用する気がかりさのある児の数は増加しており、支援の必要性も増していますが、現場では個別ケースへの困り感からの相談に留まっているのかと思います。全体への研修などを通して知識の共有を行うとともに、行政と連携して児童クラブ、放デイが担う役割を整理していくことが必要と考えます。(畑) ・【共通】来年度以降、児童クラブと放課後等デイサービスの併用利用は進めていく必要性がありますので、児童クラブへの訪問はもちろん、環境づくりの支援や、チーム作り、地域の放課後等デイサービスとの橋渡しなどもしていただくと、理解推進につながるのではないかと思います。(山田) ・【共通】児童クラブからつながるお子さんも増えてきていますが、もっと早く福祉とつながると良かったのかな？と思うケースもあります。児童クラブの館長先生からも児童発達支援センターの方が来てくれて良かったとお聞きしました。児童クラブの方が相談する機会にもなるので児童発達支援センターの働きかけは大切だと感じています。(山形) ・【共通】こども育成課への周知、児童クラブ、小中学校への周知が必要(鈴木)
		A	○	d	児童クラブ等に対し、専門的な知見に基づき、障がい児の支援方法等に関する助言を行うこと	【内容】 児童クラブの職員研修を受け入れ、保育士や支援員に発達障がいの特性や支援について説明し、実際の放デイ・児発をみてもらった。		B	△		

福井市地域障がい児支援体制強化事業 評価シート

【項目毎評価の方法】														
チェック項目：実施＝○、一部実施＝△、実施していない＝×														
総評：チェック項目が全て○＝A、○及び△＝B、×を含む＝C														
取組項目		仕様書に沿ったの自己評価				福井市の障がい児支援について 今後の取組・改善方針 (地域課題含む)	行政評価			こども部委員の意見				
		総評	チェック	業務内容			取組と取組結果	総評	チェック		評価内容・今後の方針			
	③その他			○	e	保育所や児童クラブ等以外の地域の施設に訪問し、インクルージョン推進の意義、保育所等訪問支援や移行支援の目的および内容の説明や障がい児の支援方法等に関する助言を行うこと	【訪問施設】こども食堂や小中学校、通信制高校など 【訪問回数】5回 【内容】 訪問に加えて、スクラム福井やサポートステーション福井、児童家庭センターなどと面会をし、発達障がいのお子さんの支援について意見交換を行った。	今回、その他に該当した施設はこどもの地域支援において核となる施設と考えている。引き続き必要に応じて、訪問していく。			○	保育所や児童クラブ等以外の地域の施設を訪問し、現状把握できたことは評価できる。 今後も引き続き地域の受け皿への助言を行ってほしい。	・【共通】児童クラブ以外の地域の施設がどういったものがあるのか知りたい事業所もあるのではないかと？児童クラブ以外の地域の施設でどういったものかわかるといい。(吉村) ・保育所や児童クラブ等以外の地域の施設となると、児発センター？という感じだと思いますので、まずは周知をして、知ってもらうところからスタートしてください。もっとパンフレットを事業所に渡してくださり、玄関に置くなどすると、広がりは加速すると思います。(山田) ・【共通】就学相談をしているケースについては、小中学校は把握しやすい。保育所等訪問の目的として、保護者のニーズがあっても、学校において、不要と思われるケースもある。(保護者の自己満足のよう感じる部分はないか。)緊急性を優先してほしい。それを精査するのはどこになるか。(鈴木)	
4	障がい疑われるこども等、ハイリスクなこどもと家族のサポート	①相談支援			○	a	相談に対し、関わり方や特性理解についての助言や、必要な情報提供を行うこと	【相談件数】 1,692 件 相談実人数 403人 月平均188件 毎月平均11人ほどの新規相談あり	家庭機能が脆弱している故か、保護者をサポートする役割が増えているため、機能強化事業として占める割合が多くなっている。			○	保護者支援が必要な相談が多く繋がってきている。 今後は、センター機能においても発達支援の入り口としての相談機能があることから、役割を整理し、強化事業においては長期化しやすい家族の養育不安のケースにダイレクトに相談があった時にどちらにまわすといのか分かりにくいケースもある。(山田)	・【共通】事業所、放デイなどの受け皿は増えているものの、医療から福祉サービスへとつなげていただく時に、必ずしも児の特性や必要な支援に合ったサービスにつながらないのでは、という不安があります。各事業所で可能な支援などの情報をセンターと相談支援専門員が共有するなどして、ニーズに合わせた選択を行っていただくとうかがいたいです。また、その際に医療側から必要な情報を整理して提供できるシステムがあるとよいと思います。(畑) ・【共通】一般相談として地区委託なのか児発センターなのか双方から事業所に相談が入るため、逆にこちらにダイレクトに相談があった時にどちらにまわすといのか分かりにくいケースもある。(山田) ・【共通】センターの相談件数は、実人数はほぼ同じなのに総数の差は何が違うか(山形) ・【共通】強化事業とはなにかというところが小中学校にはわかりづらいところがある。(鈴木)
					○	b	必要に応じた福祉サービスの利用援助(サービスの利用調整、同行、手続き代行等)や各種支援機関の紹介を行うこと	入園や転園の相談もあり、母の不安が高い場合に同行することがあった。 受診につながり就学後の療育や福祉サービス、移行支援について、保護者や園と相談しながら、場合によってはケース会を開いて調整したり確認を入れたりすることもある。						
	②幼児相談会等への参加	A		○	c	発達が気になる段階のこどもとその家族に対し、適切な時期に相談対応を行い、必要な支援を行うこと 〔達成値:12回以上〕	【相談会等の回数】 10 回 【相談件数】 18 回 その場でお子さんの観察をしながら保護者からの相談に応じている。 今年度相談会へは12回以上の参加予定である。	こども家庭センター主催の相談会での機能強化の役割が不明確と感じている。回数ではなく発達相談会の意義と目的において障がい側が担う役割を明確にしていきたい。	A	○	今年度よりこども家庭センターとことばの教室、児童発達支援センターの3者連絡会を開催し、お互いの支援の実態が分かるようになってきた。 今後は、こども家庭センターとの協議を継続し、それぞれの支援の対象のすり合わせや支援体制の検討を進めてほしい。	・【共通】5歳児健診に対してセンターがどのように関わっていくのか、検討が必要です。(畑) ・【共通】5歳児検診がどのようにスタートされるかわからないですが、もっと増えると思いますので、人員的にも対応に難しくなって負担にならないかが心配です。(山田) ・【共通】発達相談会では、保護者支援が必要等児童発達支援センターでの継続支援を担ってほしい対象者を担当してもらい、相談対応や保育所等訪問を通して、保護者の特性理解の促進や受診やサービスにつながるなど丁寧な関わりをしていただいている。(清水) ・【共通】今年度からことばの教室も含めた連絡会を実施することで各ケースの進捗状況や各機関の役割分担の確認がする機会を設けることができている。連絡会を今後も実施し、ケースの検討を重ねることで今後は、各機関の役割分担や連携についてより明確にしていけるとよいと考える。(清水)		
				○	d	こども家庭センターと連携し、発達が気になる段階のこどもとその家族への支援を行うこと	発達相談会のフォロー先となった場合や家庭訪問をした地区保健師からそのきょうだいの相談について依頼があると、対応している。							
5	障がい疑われるこども等、ハイリスクなこどもと家族のサポート	③潜在的要支援者への支援			○	a	関係機関と積極的に連携を図り、支援が必要なこどもとその家族(不登校や養育上ハイリスクな家庭等含む)を把握し、必要な相談支援を行うこと	【困難ケース数】 5 世帯 【支援内容】 相談支援専門員がいる場合は後方支援で保護者や関係者の要望があったときに対応。それ以外は保護者が孤立しないように、療育先、医療、学校と連携し定期的に連絡を取りながら共有している。	「潜在的要支援者」の定義が共有されていないため、自己評価しづらい。また潜在的要支援者の把握が役割なのか、把握されたケースを支援する役割なのか明確になると対応しやすい。		○	関係機関と連携を図り、支援が必要なこどもとその家族を把握し、支援を行うことができています。 潜在的な要支援者の支援について、対象や現状の整理が必要である。 今後は、出てきた地域課題について関係機関との協議やこども部会への提言を行うなど、課題解決に向けて取り組んでほしい。	・【共通】状況に応じてしっかりと対応してくださっていると思われます。状況と書かせていただいているのは、家庭センターと委託相談と児相と事業所、家庭センターと障がい福祉課と相談支援専門員と事業所など、児発センターが介入されないケースも多く見受けられます。これの差は一体なんなのでしょう？すべてに介入するのは難しいと思われますが、入ってもらわれないの違いがあるなら基準があるとよいのではないかと。(山田) ・【共通】お子さんが登園・登校している間の保護者支援(保護者が福祉サービスにつながらない場合)については、スクールソーシャルワーカーとの連携を図ってほしい。(鈴木) ・【共通】課題に関して、子どもだけの問題と捉えず、訪問看護、子どものサービスなのか、保護者自身のサービス利用をしたほうが有効なのか、多方面から相談する。多職種連携会議も必要である。他部署間の連携が必要である。(鈴木)	
					△	b	潜在的な要支援者の把握を通じて地域に存在する課題やニーズの発見、把握を行うこと	【課題・ニーズ】 本人だけではなく、保護者やきょうだいなども課題を抱えていたり、相互作用の中で解決の難しさが生じたりしている。そのなかで、勤務時間外に対応することもある。						

福井市地域障がい児支援体制強化事業 評価シート											
【項目毎評価の方法】		チェック項目：実施＝○、一部実施＝△、実施していない＝×									
		総評：チェック項目が全て○＝A、○及び△＝B、×を含む＝C									
取組項目		仕様書に沿った自己評価				福井市の障がい児支援について 今後の取組・改善方針 (地域課題含む)	行政評価			こども部会委員の意見	
		総評	チェック	業務内容	取組と取組結果		総評	チェック	評価内容・今後の方針		
	④障がい児を抱える保護者間の交流会		○	c	保護者同士が交流できる場を定期的に開催し、障がい児への関わり方や特性理解等知識の習得を目指すとともに、保護者の心理的負担の軽減や孤立感解消を図ること 〔達成値：6回以上〕	【開催内容】 ・7/19 中高生の保護者対象に就労に必要なスキルについて ・8/2 パパサロン ボードゲーム体験 ・9/6 未満児のお子さんと保護者でふれあい遊び教室 ・10/25 4, 5歳児の保護者対象にこども園から小学校に移行までの体験談を聞く会 ・12/13 幼児小学生のお子さんと保護者でクリスマスカードづくり ・1/9～ベアトレ(全6セッション)ほか ・3/7育てにくさを感じている親御さんのための講演会	保護者のニーズをリサーチして、保護者の学びやリフレッシュ、交流の場になるよう、今後も取り組んでいく。		○	様々なテーマで保護者同士が交流できる場の開催が行われている。 今後も保護者の障がい児支援への関わり方や特性理解が進むよう、関係機関とニーズに合わせた内容の企画やタイアップなどで必要な保護者への支援に繋げていくことが望ましい。	・保護者同士が交流できる場合は放デイなどでも設定していることも多いため、そこに児発センターまでとなると保護者としてはまた？と思われる場合もあるかもしれない。放デイなどが行っている保護者交流などに一緒に参加してもらうことで、児発センターの理解につながるのではないかな。(山田) ・【共通】会場として、アオッサの児童家庭支援センターや、地域の子育て支援センターなど、子育て世代の保護者が集まりやすい場などでの開催がいいのではと思う。(鈴木)
6 等 へ の 研 修 事 業 所	①福井市児童発達支援管理責任者ミーティングの運営	A	○	a	事務局として福井市児童発達支援管理責任者ミーティングを開催し、障害児通所支援事業所間のネットワーク構築を行い、連携の強化、質の向上を図ること	【回数】 3 回 【内容】 #1 5/22 人材育成を考えよう #2 9/25 地域の居場所づくり #3 12/5 本人や家族のニーズに寄り添った支援を実現していくために 成果を量的に表すことは難しいが、毎回の参加者は多く、事後アンケートでは満足度も高い結果となっている。	参加者が多いのは、一人職場であることの辛さと難しさに多くの児発管が悩んでいるからだと感じる。 今後も児発管同士のネットワーク構築のため、より効果的に持続可能な運営をするために、毎回のテーマや役員選出方法についてより見える化を図りたい。	A	○	ミーティング後のアンケート結果によれば、ミーティングに参加した事業所の満足度は高く、事業所間のネットワークの構築や質の向上に繋がっている。 今後は、事業所の参加率を増やし、事業所全体の質の向上に繋げてほしい。	・【共通】事業所間での温度感の違いや質のボトムアップに十分つながっているのではないかと思います。(山田)
7 自 立 支 援 協 議 会 へ の 参 画	①自立支援協議会の運営への参画	A	○	a	児童発達支援センターの業務を通し、把握した地域課題について整理し、自立支援協議会に参画すること	こども部会において積極的に発言し、参画している。今年度は障がい福祉課と協力しながら地域課題の提出も行ったところである。	組織編成に伴って今後も積極的に参画し、その責務を果たしていく。		△	今年度は地域課題の整理についての取組は弱かった。 今後は、児発管ミーティングなども活用し、積極的に地域課題の把握を行い、自立支援協議会(こども部会)へ提起してほしい。	・【共通】地域課題の抽出の場(発散の場)と解決に向けた場(収束の場)をわかりやすい形で周知してもらい、意見の出しやすい環境を作ってほしい。福井市の事業所の児発管の方々の協議会に参加しているという意識の向上につながるよう促してほしいです。(山田)
			○	b	行政および関係機関と連携し、社会資源の開発や支援システムの構築を行うこと	こども部会において積極的に発言し、参画している。			B		